

# ソフトウェア品質保証責任者の会Re-Born

## 2021年度活動報告

2022年5月25日  
西田尚弘

# SIGの名称・目的・目標

## ■ SIG名称

- ソフトウェア品質保証責任者の会 Re-Born

## ■ 当SIGの目的

- 関西で活動するソフトウェア品質に関わる人々の交流の場の提供
- 情報交流、技術交流することで互いのソフトウェア品質保証に関するスキルを高める

## ■ 当SIGの目標・成果物

- 参加者のソフトウェア品質保証スキルの向上
- 成果物について、活動した内容を公表する
  - セミナー内容を講師が許諾する範囲で公開する
  - 分科会の調査結果を極力公開する

# SIGの活動内容

- 関西地区で一昨年まで行っていた“ソフトウェア品質保証責任者の会”の流れを受け、SIGとして「責任者の会」と同程度以上の交流の場を提供することを第一の活動とする
- 参加人数の拡大とともに、自主的な臨時会も含めて活発な活動を実施。議論したテーマの継続と深耕を継続すべく活動を進める
- 前回に引き続き、交流の場では以下を実施し、参加者のスキルアップを図り、メンバーの所属組織のみならず日本の情報産業の発展にも寄与する
  - 参加メンバーもしくは参加メンバーが推す講師によるセミナー
  - 参加者がテーマを発起するソフトウェア品質保証に関する研究活動を分科会形式にて実施

# 年間活動実績①

回	年月日	内容	備考
1	2021年4月16日	実際の現場からのお悩み事相談会①	
2	2021年5月14日	実際の現場からのお悩み事相談会②	
3	2021年6月18日	実際の現場からのお悩み事相談会③	
4	2021年7月16日	実際の現場からのお悩み事相談会④	
5	2021年8月20日	実際の現場からのお悩み事相談会⑤	
6	2021年9月17日	中止	
7	2021年11月19日	今後のSIGについて	

※今年度はコロナの関係上全てオンラインで開催

# 年間活動内容

## ■ 活動内容

- リアルな現場のお悩み事から改善案を提示：
  - 現場からの生の声を収集して、その改善案をSIG内で検討した。
    - 現場からお悩み事例：
      - ・ コードの先祖返りがある(デグレ)
      - ・ 客先受入で対応漏れの発生(要求漏れ)  
※SIG内では、後半のお悩みについて議論を行った。
- 検討結果：
  - お悩みを収集した実際の現場に対して改善提案を実施。
    - 提示した内容
      - ・ 変更の有無についてチェックするプロセスを提案
    - 具体的には：
      - ・ 既存システムと新規システムとの差分から対応が必要かどうかをチェックするプロセスを入れる。

# 年間活動 まとめ

- まとめ：
  - 21年SIGの活動から、実際の現場が持っている課題に対して検討を行った。
  - 検討結果から、改善案について、実際の現場に対して改善内容を提示できた。

# 今後の活動

- **22年度活動**

- 22年度の活動につきましては、「休止」とさせていただきます。
- 23年度以降の活動については、検討。